

[粕屋演習林]A. 林木の育種に関する研究 : 5. 第1網 室におけるスギさし木の発根試験について

宮島, 寛
九州大学農学部附属演習林 : 教授

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 講師

柳池, 一馬
九州大学農学部附属演習林 : 林業手

<https://doi.org/10.15017/1458317>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和45年度, pp. 52-52, 1971. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

5 第1網室におけるスギさし木の発根試験について

宮島 寛・宮崎安貞・柳池一馬

昭和45年3月9日から13日までに、第1網室においてスギ在来品種および育成品種計8品種10,458本をさし付けた。自動灌水装置による灌水量は季節によつて変化させたが、おおよその標準で示せば夏季40分ごとに15秒、その他の季節では90分ごとに15秒であつた。昭和46年2月下旬に掘取つてさし穂の発根状況を観察記録したが、その結果は表-1に示すとおりであつた。

表-1 スギさし穂の発根状況

(単位 本)

品 種 名	さし付 本 数	優 良 苗 本 数	不 良 苗 本 数			
			根少ない	カルス	カルスなし	枯 損
クモトオシ	1,338	1,128	103	19	84	4
ヤブクグリ	1,930	1,864	56	3	7	0
アヤスギ	1,385	1,380	4	0	1	0
ニンジンバ	1,091	1,015	49	13	14	0
アカバ	355	354	0	0	0	1
シチゾウ	1,409	1,278	106	13	12	0
ヤマグチ	1,327	1,301	17	9		
ヤイチ	1,623	1,550	32	24	13	4
計	10,458	9,870	367	81	131	9

すなわち、表-1からさし付総本数10,458本に対して山出し苗9,870本を得たので、山出し率は94.4%であつた。残り5.6%は不良苗で、発根はしているが不十分なもの367本(3.5%)、カルスの形成段階でとどまつたもの81本(0.8%)、カルス不形成個体は131(1.3%)でその大部分はクモトオシであつた。さし付後枯損したものは9本に過ぎない。以上から、第1網室におけるスギさし木苗のつくり方はほぼ正常かつ適正に行なわれているといつてよく、発根促進ホルモンなどの処理は前述のスギ品種では殆んど不必要と考えられる。今後の問題としては、土壌の消毒法の改良や発根の困難な品種に対して本施設がどのような効果を挙げ得るかなどが残されているように思える。